2022/6/23 エラーハンドリングメッセージまとめ

* 各ボタンから呼び出されるシェルスクリプトの末尾にて、exit文で2桁の整数の返却コードを返し、呼び出し元のAPIであるmain.pyのsubprocess.run()に通知する
* 0が正常終了
* 返却コードが0でない場合、10の位はエラーの場所を示す
  + 1 – preprocess(事前処理)
  + 2 – startseach2R(ビニングマスク)
  + 3 – prempsearchC-before(軌道取得(確定番号))
  + 4 – prempsearchC-after(軌道取得(仮符号))
  + 5 – astsearch\_new(自動検出)
  + 6 – AstsearchR\_between\_COIAS\_and\_ReCOIAS(探索モード後処理)
  + 7 – AstsearchR\_afterReCOIAS(レポートモード前処理)
  + 8 – AstsearchR\_after\_manual(手動測定後処理)
* 1の位はエラーの理由を示す
  + 1 - ファイルのアップロードを忘れて解析を始めてしまった
  + 2 - ネットに繋いでなくてwgetかastroquery.jplhorizonに接続できない
  + 3 - astroquery.jplhorizonで何らかの理由でコケてタイムアウト
  + 4 - 何らかの理由で中間ファイルができなくてfile not foundエラー
  + 5 - その他の予期せぬエラー(pythonスクリプトの中でFileNotFoundError以外のエラー)
* エラーが発生したら、全自動処理であったとしても各ボタンから呼び出される各スクリプト (上記1-8のスクリプト+ getMPCORB\_and\_mpc2edb\_for\_button) が終わった段階で処理を中断してもらうようにする(即座に中断ではなく、いくらエラーを吐かれてもそれらスクリプトが終了するまでは処理を継続する)
* ユーザーに通知するエラー文章(赤字が実際にモーダルに出すメッセージ)
  + 1行目 – [場所]でエラーが発生しました。 ([場所]にはこの文書6行目の 返却コードが0でない場合、10の位はエラーの場所を示す の箇条書き以下の番号の()の中を入れる。番号はエラーコードの10の位に対応する)
  + 2行目以降 – 以下番号はエラーコードの1の位に対応する
    - 1.の場合 – 5枚のwarp画像をアップロードしてから解析して下さい。
    - 2.の場合 – インターネットに接続してから解析をして下さい。
    - 3.の場合 – 軌道取得を何回かやり直して下さい。
    - 4.の場合 – 必要な中間ファイルがありません。全自動処理をやめていくつか前の適切な処理からやり直して下さい。何回かやり直してもエラーが出る場合、開発者にlog.txtをメール送信して下さい。
    - 5.の場合 – 予期せぬエラーが発生しました。何回かやり直してもエラーが出る場合、開発者にlog.txtをメール送信して下さい。
* 上記エラーメッセージの生成はmain.py で行う。エラー発生時は main.py からエラーメッセージをフロントGUIに通知して、エラーモーダルに表示させる。
* エラーポップアップは自動で消えてしまうと見れない可能性があるので、バツ印などを押さないと消えないようにしてもらう。
* エラーモーダル内にlog.txtをダウンロードできるボタンを追加してもらう。